

令和7年11月28日

保護者様

丹波市立市島中学校

校長 増田 博

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について（お知らせ）

初冬の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、学習指導要領（全国どの地域でも一定水準の教育が受けられるようにするための、各学校の「教育課程【カリキュラム】編成」の基準）では、**知識理解の質をさらに高め、「確かな学力」を育成するとともに、「社会の変化」が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことを受け、生徒一人ひとりが、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合うという、未来を「生きる力」の育成が求められています。**

生徒に「生きる力」を育む教育を推進していく中で、「確かな学力」の育成は、学校教育の大きな目標の一つです。そのため、全国学力・学習状況調査の結果から本校生徒の現状把握と分析を進めるとともに、生徒の学習達成状況を的確に把握し、日々の授業に活かすことが重要と考えます。

つきましては、今年度の全国学力・学習状況調査（令和7年4月14日、17日実施）の結果について、その概要等をお知らせします。保護者の皆様におかれましては、内容をご一読いただき、ご家庭でも今後の学習の充実につなげていただけると幸いです。

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要と考察

丹波市立市島中学校

調査の概要（参照：文部科学省 HP）

（令和7年4月14日（月）、17日（木）実施）

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。（調査問題では下の2点を一体的に問うこととする。）

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

○児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

（例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣、家庭学習の状況 など

○学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

（例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

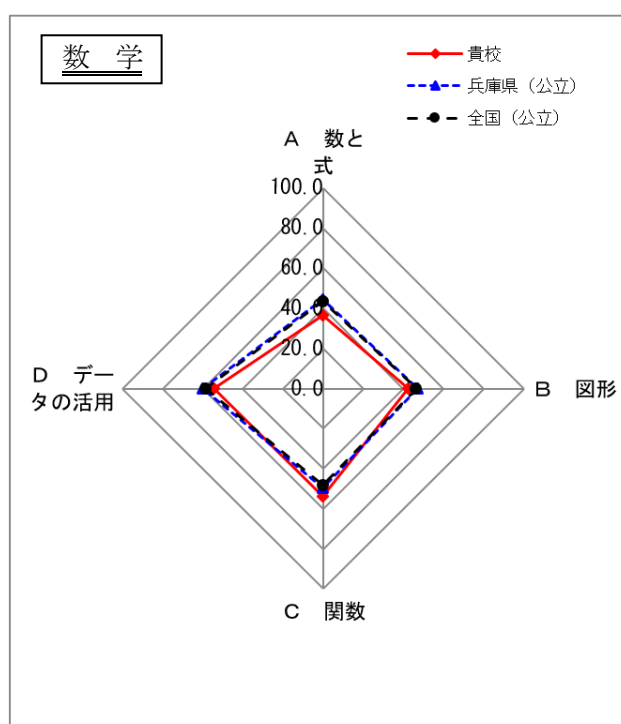
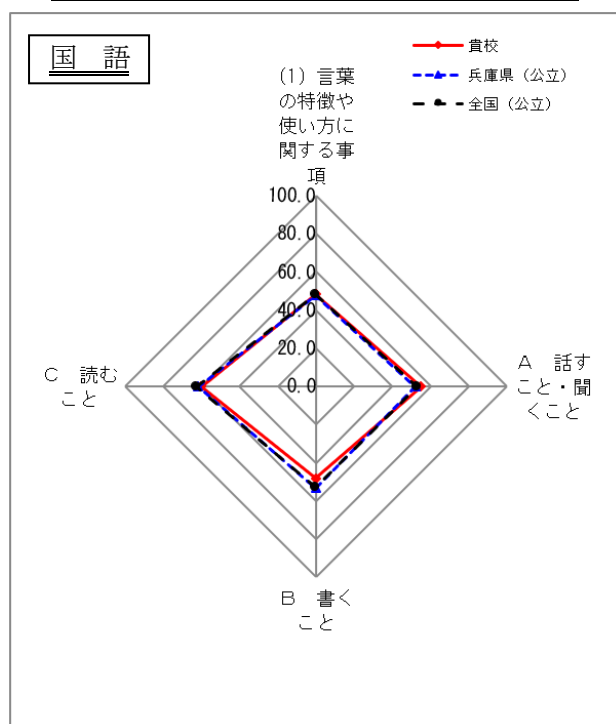
時間割

- 14日 5校時：生徒質問調査（20分程度）＋C B T練習（25分程度） 6校時：理科
- 17日 1校時：国語 2校時：数学

結果の概要

国語・数学とも全国平均と同程度 ※「同程度」とは全国平均との差異が±5%以内

学習指導要領の領域等の平均正答率の状況



見えてきた成果

【国語】

思考力・判断力・表現力を問う設問の中で、「話すこと・聞くこと」に関する正答率は全国平均より高く全国平均を上回ったものもあった。この結果は、授業中をはじめ学級活動においても、自身の考えをペアやグループトークで友達に説明したり、意見を交流して考えを深めたりする活動を継続して行ってきた成果であると考ええる。

【数学】

「関数」領域の問題はすべて全国の前答率より高い。この結果は授業の中で1年生での学び（比例・反比例）をもとに2年生での学び（一次関数）を深めていくことができた成果であると思われる。さらに、授業の中でICTを活用し、実際に変化している様子を視覚的にとらえながら取り組んだことで、事象を数学的にとらえることができたのではないかと考える。

【理科】

思考力・判断力・表現力を問う設問の前答率が全国平均に比べて高いことから、実験結果から目的にあった考察ができる力や身のまわりの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することができている。この結果は、授業の中で実験結果の考察を自分で書く経験を数多くこなしているからと考える。

見えてくる課題

【国語】

思考力・判断力・表現力を問う設問の中で、「書くこと」に関する前答率は、すべての問題で全国平均を下回った。この結果から、本校生徒は言葉や表現のバリエーションが少なく、文章を書いても読み手を意識して再構成する力に課題があることが分かった。

【数学】

全国の前答率よりも大幅に低かったのは、「素数の意味を理解しているか」（1・－19.9ポイント）、「相対度数の意味を理解しているか」（5・－17.1ポイント）であった。これらについては、言葉の意味が十分に理解できていなかったり、知識が定着していなかったりしている。また、「図形」の証明に関する問題では、証明の読み取りや証明された事柄をもとにして、新たな関係を見出すことに課題が見られた。

【理科】

「エネルギー」を柱とする領域に関する前答率は、全国平均よりすべて低かった。全体的に知識・技能を問う問題の前答率が全国平均より低いことから、知識の定着に課題があることが考えられる。

今後の方策

全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、2学期以降は各教科において以下のような方策により授業改善に取り組んでいく。

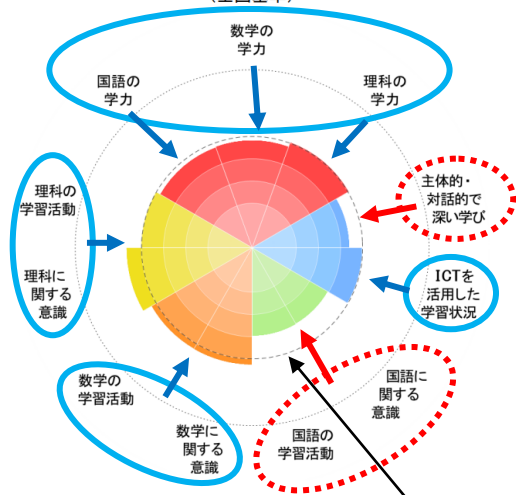
- ・定期的に学び直しの機会を設け、基礎学力の定着を図る。
- ・自分の考えを相手に伝わるように説明したり、記述したりする場面を授業内に設定する。
- ・ICTを積極的に活用し、協働的な学びを推進する。

生徒質問紙の結果から

令和7年度全国学力・学習状況調査 全国学力・学習状況調査結果チャート 丹波市立市島中学校

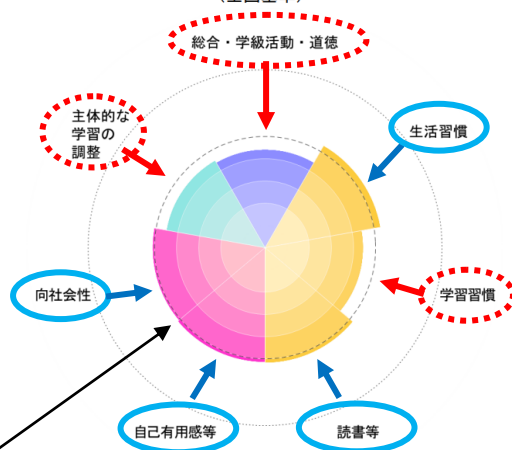
〔教科を中心とした学力・学習状況〕

(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

(全国基準)



良好
全国に同程度
やや課題あり
課題あり

【自己有用感、向社会性を問う質問】

質 問 事 項	肯定的回答	全国との差	前回との差
自分には、よいところがあると思いますか	80.6	-5.6	+11.2
先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか	93.5	+1.3	+5.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	87.1	+13.9	+27.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	88.7	+2.6	+9.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.4	+1.8	+8.6
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	80.6	+5.3	+9.2

「自分によいところがある」という思いは、全国に比べると低い値ではあるが、前回と比較して、改善傾向にある。これは自分の良いところを認めてもらったり、困ったときに相談できたりする大人がいると感じている生徒が増えていることも関係していると考えられる。今後も「人の役に立ちたい」「地域や社会に何かしたい」という人を愛し、ふるさとを想う気持ちを育んでいけるよう取り組んでいく。

【学習習慣を問う質問】

質 問 事 項	1時間未満	全国との差	前回との差
	1～2時間		
	2時間以上		
学校の授業時間以外に、平日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	59.6	+21.5	+20.8
	24.2	-6.6	-24.8
	14.5	-16.3	+4.3
学校が休みの日に、2日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	37.1	-2.4	+0.4
	38.7	+13.3	+4.0
	20.9	-11.6	-7.7

平日、休日ともに学習時間は決して多くなく、平日1時間以上学習する生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。前回と比べても平日の学習時間の少ない生徒が増えていることから、自分で学習する内容を調整しながら計画的に学習に取り組めるよう、今後も継続した指導が必要である。